

①患者の意識を変えよう

- ・病気に正面から向き合う
- ・正しい情報を選べる患者力をつけよ
- ・多様化を認識せよ、価値観の違いを学べ
- ・医師任せばかりではダメ
- ・病気を追っかけるにはスピードが必要

## がんから学ぶ

—がんサロン主宰者が語る—



1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの関フジキン総務部部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、Iターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(ガイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

島根益田がんケアサロン 代表  
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

## 積極的に情報を求めて

・遠い病院にかかれれば、良い病院であっても行動サイクルが遅くなる

山口県の総合病院へ通院していた患者がいた。ある日、精密検査を受けた。普通、近くの病院ならば2〜3日後には検査結果は患者の手に入る。しかし150キロ以上離れた総合病院にはそんなに度々は行かない。つい結果を聞くのを遅らしてしまう。このような状況が度々あると、がんの進行は早いので手遅れになってしまうことが多い。

〈サロンである患者さんの行動を聞いて感じたこと〉

- ・自分から進んで医療情報を求める人が少ない。
- ・患者が医師を思うほど、医師は患者のことを思ってくれていない
- ・早期発見、早期治療を第一に
- ・病状には必ず自覚症状がある。それを見逃すか否かで一生は決まる

患者は一人ひとり考え方が違う。求める治療も違って当然である。全て医師の

言うとおりにする必要はない。

②患者力を磨くには

患者サロンに積極的に参加して欲しい。そこから新しい発見が生まれる。患者サロンは生き方、死に方を学ぶ場でもある。サロンには、医師、看護師、薬剤師、栄養士、MSW等いろいろな方々が参加してくれている。診察時とは違う感覚と気持ちで話が出来ると。

〈氾濫した情報の中から必要な情報を選び出せる力は如何に〉

- ・様々な勉強会・講演会・研修会に積極的に参加すること
- ・他の患者会と接触する事がよい。
- ・現役意識を忘れずに、今を生きること
- ・健康を感じるバロメーターとして脈を測る、心臓の鼓動を知る、AEDを知る
- ・死から今を見て、人生の工程表を作る。
- ・数値目標と期限がはっきりと表明出来るように

コミュニケーション力を磨く。患者サロンはそれを磨く道場なり